

# CA-V1

STEREO PRE-MAIN AMPLIFIER CA-V1  
GUIDE MANUAL

ヤマハ ステレオ プリメインアンプ

取扱説明書



 **YAMAHA**

## ●ご挨拶

このたびはヤマハステレオプリメインアンプCA-V1をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。ヤマハのもつエレクトロニクス技術を結集して完成されたCA-V1は、出力・歪率共、十分な性能を持った、OCL SEPP純コンプリメンタリー回路のメインアンプにより、透明度の高い音楽性豊かな音質を追求しております。また豊富な入出力回路や附属回路など、応用性の高いCA-V1の性能をフルに発揮させると同時に、長年故障なくお使いいただくため、この取扱説明書をご使用前に是非お読みくださいますよう、お願いいたします。

## ●目次

特長・ご使用になる前に	2
フロント、リアパネル面の名称	3
接続一覧図	5
各機器の接続と使い方	6
スピーカーシステムの接続と使い方	6
レコードプレーヤーの接続と使い方	6
チューナーの接続と使い方	6
テープデッキの接続と使い方	7
AUX/TAPE B、ヘッドホーンの接続と使い方	8
付属品について	8
付属機構について	9
トーンコントロール	9
出力レベルメーター	9
バランス	10
ラウドネススイッチ	10
規格・ブロックダイアグラム	11
故障と思われる時には	12
サービスのご依頼について	13

## 特長 ご使用になる前に

### ●特長

- 25W+25W(20~20KHz、T.H.D 0.05%)の実効出力、低歪率のOCL SEPP純コンプリメンタリー回路のメインアンプは優れた音質を追求しています。
- 対数圧縮型出力レベルメーターを装備し、誤差を±2dBに押し0.1~50Wまで直読できます。
- REC OUT SELECTORスイッチの採用で、スピーカ

### ●次のことにご注意ください

- 設置場所は、直射日光のあたるところや湿気の多いところをできるだけ避けるようにしてください。
- 電源スイッチをONにして約4秒間ぐらひはスピーカーから音が出ませんが、これはショックノイズ防止用のミュート回路が動作しているためで、アンプが規定の動作状態になると、スピーカーから音が出ます。
- REC OUT SELECTOR, INPUT SELECTORなどのスイッチ類は、説明に従い適正な操作をするようにしてください。無理な力を加えたり、途中で止めてご使用

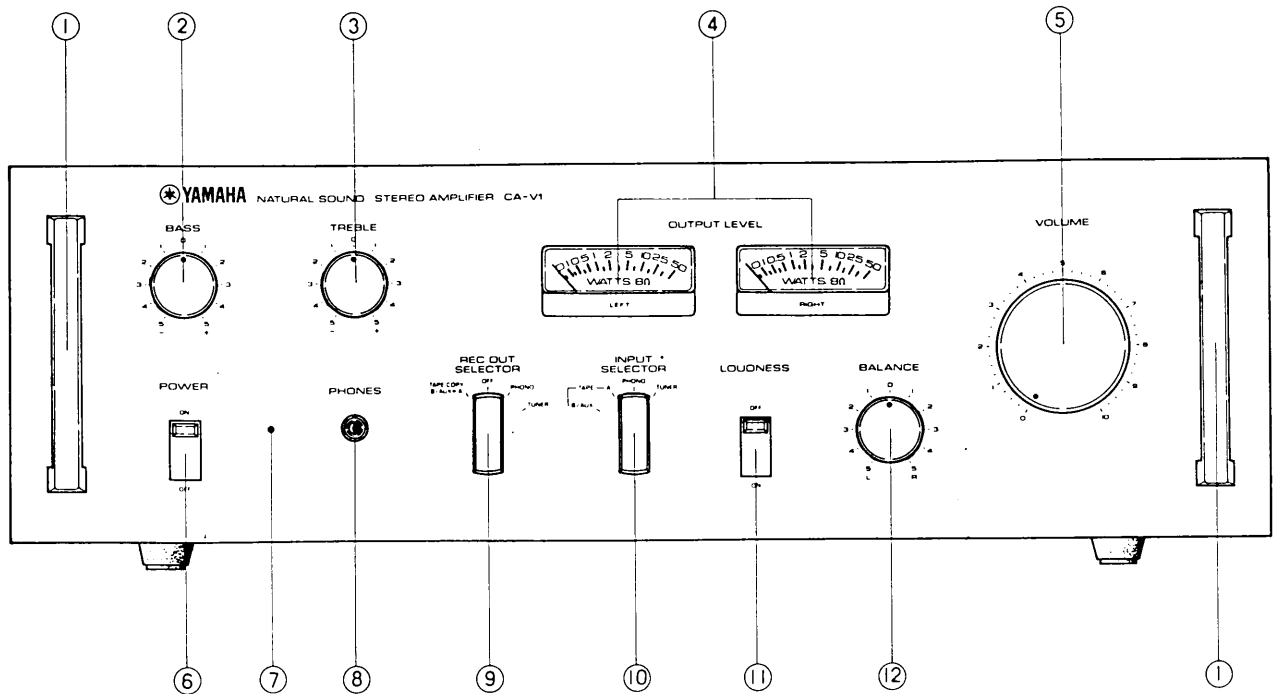
一を鳴らしているプログラムとは無関係に録音ができるというダブルアクションが可能です。

- リレー方式のスピーカー保護回路を内蔵。
- トーンコントロール、ラウドネスコントロール、予備電源コンセントなどの付属回路。
- 人間工学に基づいた操作性と優美なパネルデザイン。

になるようなことは避けてください。

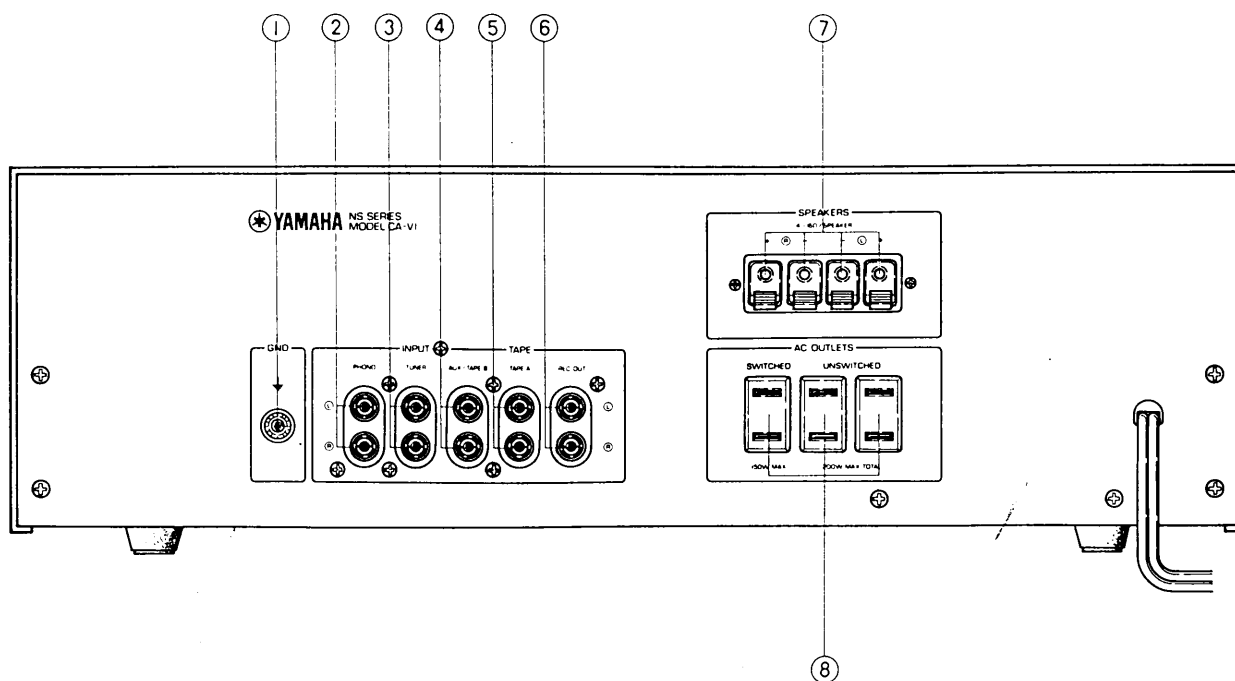
- 出力レベルメーター指示の許容誤差は、±2dB以内となっております。
- 把手にはあまり無理な力をかけないようご注意ください。
- お買い上げいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、十分ご注意くださいますようお願いいたします。

# フロント、リアパネル面の名称



## ●フロントパネル面の名称

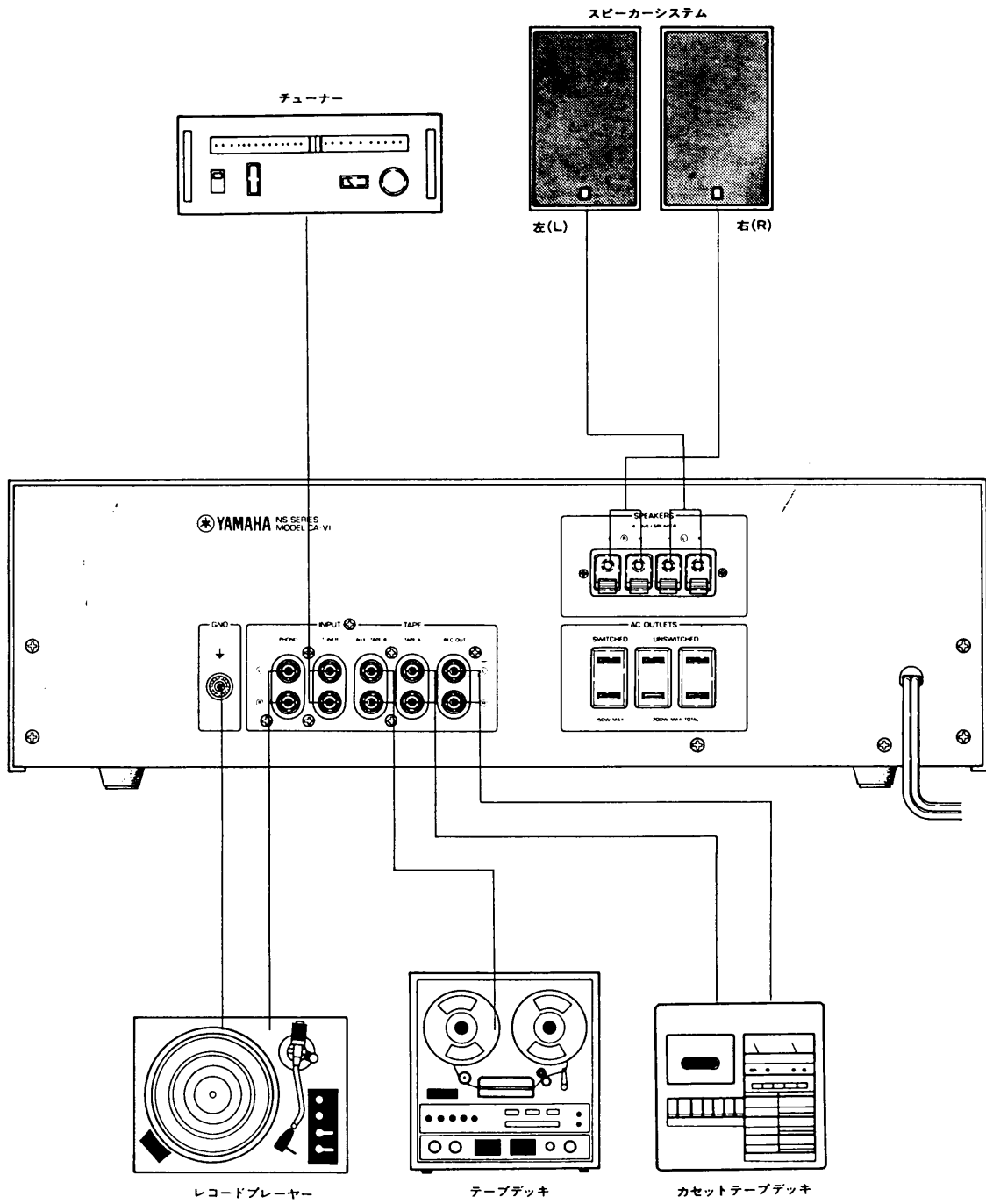
- |                           |                                |
|---------------------------|--------------------------------|
| ① 把 手                     | ⑦ 電源表示灯                        |
| ② BASS(低音調整ツマミ)           | ⑧ PHONES(ヘッドホーン端子)             |
| ③ TREBLE(高音調整ツマミ)         | ⑨ REC OUT SELECTOR(録音出力切換スイッチ) |
| ④ OUTPUT LEVEL(出カレベルメーター) | ⑩ INPUT SELECTOR(入カ切換スイッチ)     |
| ⑤ VOLUME(音量調整ツマミ)         | ⑪ LOUDNESS(ラウドネススイッチ)          |
| ⑥ POWER(電源スイッチ)           | ⑫ BALANCE(バランス調整ツマミ)           |



## ●リアパネル面の名称

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| ① GND(アース端子)                   | ⑥ REC OUT(テープ録再端子)                         |
| ② PHONO(フォノ入力端子)               | ⑦ SPEAKERS(スピーカー出力端子)                      |
| ③ TUNER(チューナー入力端子)             | ⑧ AC OUTLETS(予備電源コンセント)                    |
| ④ AUX/TAPE B(補助入力およびテープ再生端子 B) | SWITCHED : 電源スイッチと連動(150Wまで供給)             |
| ⑤ TAPE A(テープ再生端子 A)            | UNSWITCHED : 電源スイッチと非連動<br>(TOTAL200Wまで供給) |

# 接続一覧図



# 各機器の接続と使い方

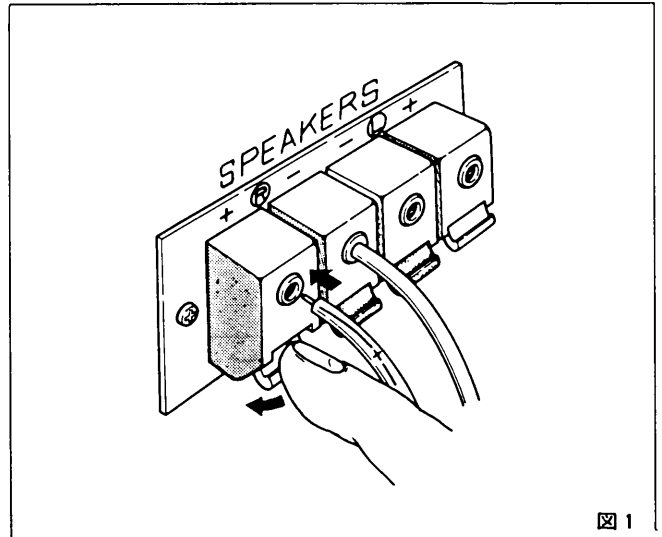
## ●スピーカーシステムの接続と使い方

アンプリアパネルのスピーカー接続端子(SPEAKERS)にスピーカーシステムを接続してください。

### 接続方法

- ① リアパネルのSPEAKERS端子へ、向って左側のスピーカーシステムのコードをL端子、右側のスピーカーシステムのコードをR端子に、位相(+、-)を確認してから接続してください。まちがえて接続すると低音のそこなわれた不自然な再生音になってしまいますから注意してください。(図1)
- ② スピーカー接続端子は、プッシュ式で図1のように下のレバーを押すと外側の穴と内側の穴が合いますので、そこへスピーカーコードの先端をさし込み、レバーを離しますとコードは、しっかりロックされます。接続が不完全ですとスピーカーから音が出ない場合がありますので、スピーカーコードがしっかりロックされているか接続した際に確認しておいてください。(図1)

※下記“接続と使い方”“付属機構”では必ず接続が確実におこなわれていることを確認の上、アンプの電源、プラグをACコンセントに差し込み、電源スイッチをONにして動作させてください。



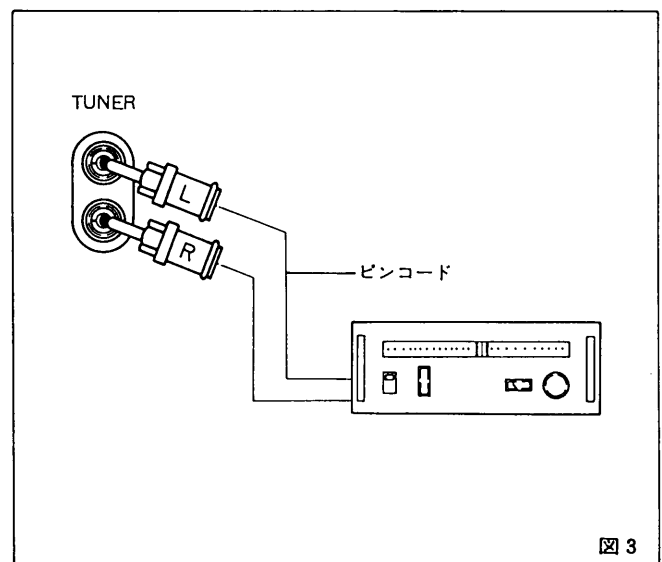
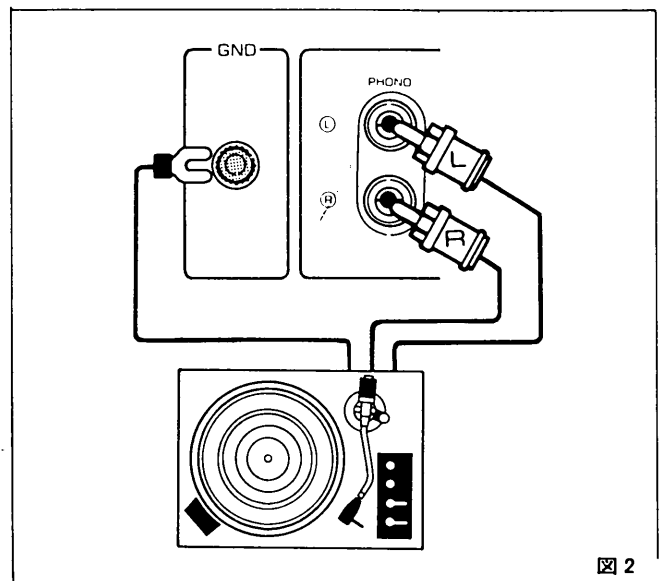
## ●レコードプレーヤーの接続と使い方

プレーヤーから出ているピンプラグコード先端のピンプラグのL、Rを確認して、PHONOの入力端子に接続してください。ピンプラグと共にアース線も出ている場合はリアパネルのGND端子に接続してください。(図2) 場合によっては接続しない方がハムに対してよい結果を得られることがあります。

レコードを演奏するときは、フロントパネルのINPUT-SELECTORスイッチをPHONOに切換えればレコードを演奏することができます。

## ●チューナーの接続と使い方

チューナーの出力端子とアンプリアパネルのTUNER端子をL、Rを確認してピンコードで接続します。(図3) チューナーでFM放送あるいはAM放送を聴く場合には、INPUT SELECTORスイッチをTUNERのポジションにセットし、チューナーを操作して希望放送局の周波数に合わせてください。



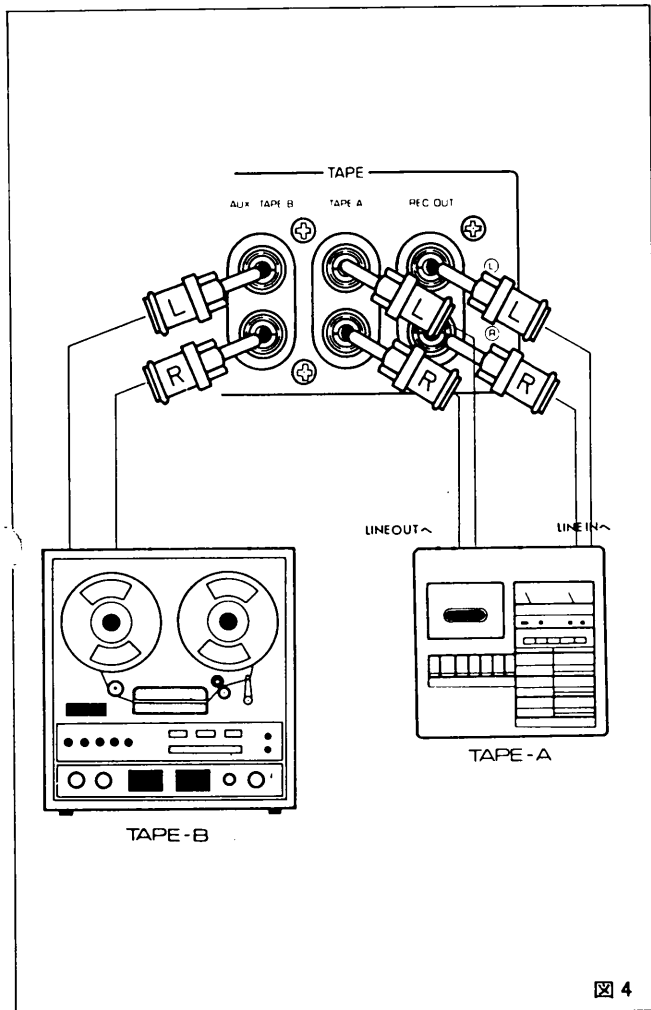


図 4

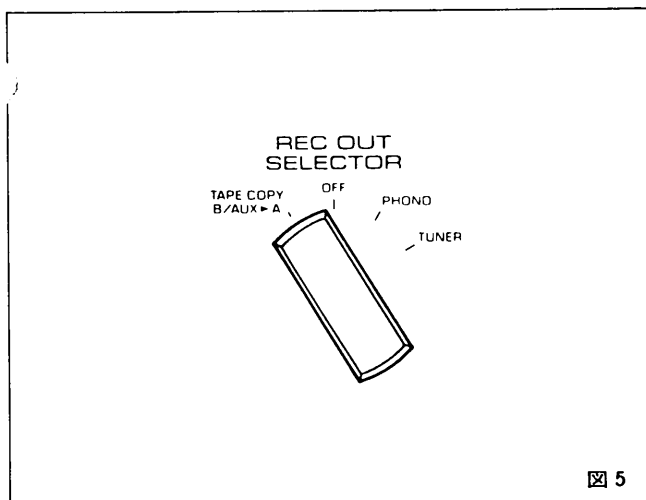


図 5

## ●テープデッキの接続と使い方

本機は TAPE A(テープ再生端子A)と、AUX/TAPE B(補助入力およびテープ再生端子B)を備えており、AUX/TAPE BよりTAPE Aへのダビング(複写)が可能です。

### ■接続方法

アンプリアパネルのREC OUT 端子とテープデッキの録音入力端子(LINE IN)をL,Rを確認してピンコードで接続し、アンプのTAPE A 端子とテープデッキの再生出力端子(LINE OUT)を同様にピンコードで接続してください。AUX/TAPE B 端子にもう一台のテープデッキの再生出力端子(LINE OUT)を接続してください。(図4)

### ■テープの再生

INPUT SELECTOR スイッチをTAPE A あるいは TAPE B/AUX のポジションにセットし、そのポジションに接続されたテープデッキを再生操作すれば、テープに録音されたプログラムソースが再生されます。

※録音するプログラムソースが結線され動作状態になっていることを確認して下さい。

### ■テープへの録音

REC OUT SELECTOR スイッチを録音したいプログラムソースのポジションにし、REC OUT 端子に接続してあるテープデッキを録音操作すれば、アンプで再生しているプログラムソースをテープに録音することができます。

### ■テープのダビング(複写)

本機では AUX/TAPE B 端子に接続してあるテープデッキBから REC OUT 端子に接続してあるテープデッキAへのダビングがおこなえます。この場合、REC OUT SELECTOR スイッチをTAPE COPY B/AUX ▶ A のポジションにセットし(図5)テープデッキBを再生操作、テープデッキAを録音操作にします。

テープデッキA(録音する側のデッキ)が3ヘッド式や録音モニターのできるデッキならば、テープデッキからアンプに送られてくる信号が再生されますので、録音のチェックをすることができます。

※TAPE A から AUX/TAPE B へのダビングはできません。

## 各機器の接続と使い方

### ■録音しながら他のプログラムを再生する場合

REC OUT 端子に出てくるプログラムソースはINPUT SELECTOR スイッチのプログラムと関係なく切換えて録音することができます。レコードをスピーカーで聴きながらREC OUT SELECTORスイッチでチューナーの録音をするというダブルアクションやテープのダビングなどが可能です。(図6)

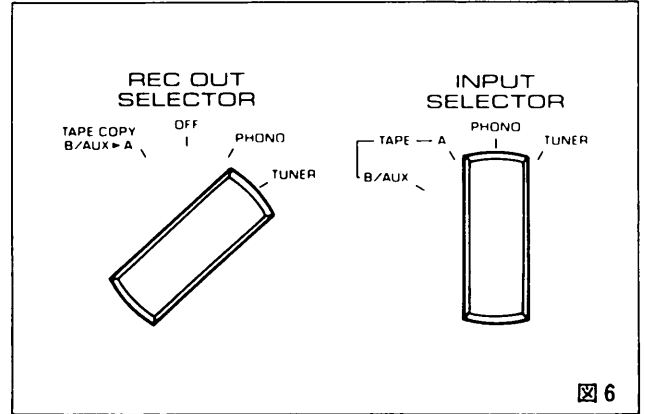


図6

### ●AUX/TAPE B への接続と使い方

AUX/TAPE B 端子は補助入力用の端子としてもご使用できます。接続使用する機器の出力端子とアンプリアパネルのAUX/TAPE B端子をL、Rを確認してピンコードで接続します。(図8)この端子は、テープデッキの他に2台のチューナーを使つての比較試聴やテレビの音声チューナーをはじめ、8トラックテーププレーヤーなどが接続できます。

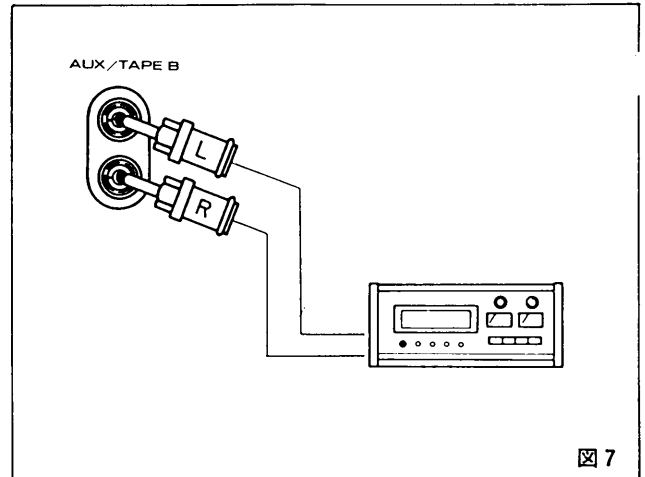


図7

### ●ヘッドホンの接続と使い方

ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差込んでください。スピーカーからの音が消えてヘッドホンだけで聴くことができます。ヘッドホンはL、Rを確認して正しくお使い下さい。(図8)

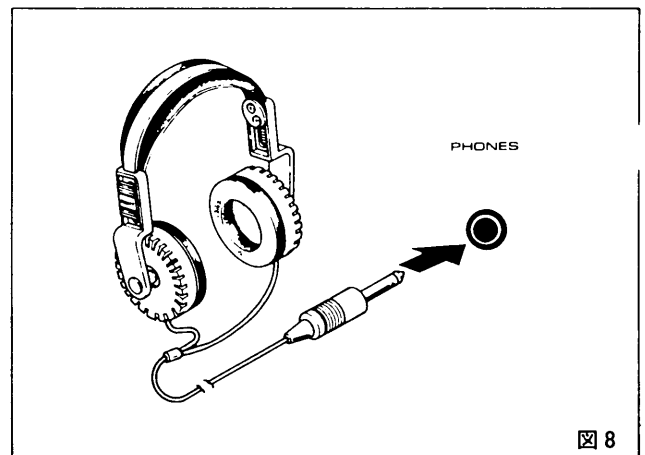


図8

### ●付属品について

#### 六角棒レンチ

六角棒レンチは、REC OUT SELECTOR、INPUT SELECTOR スイッチなどの垂直位置を調整するときなどにお使い下さい。



## 付属機構について

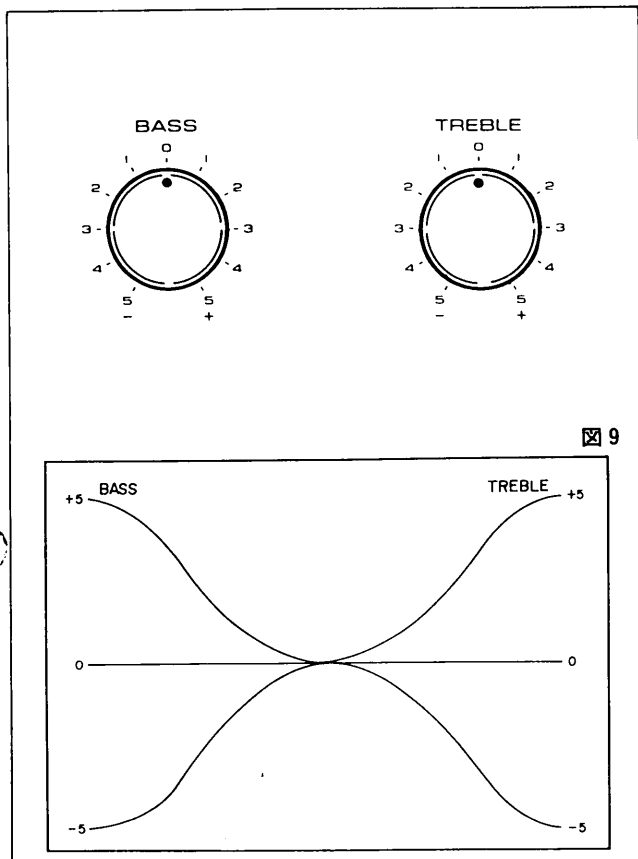


図9

### ● トーンコントロール

音質は部屋の状態などによって変わりますが、自分の耳にフィットするように音質を変化させるツマミがトーンコントロールです。調整は低域と高域と別々になっています。

(図9)

BASS(低音調整)は0のポジションがフラットな状態で、右へ回すほど低音が強調され、左へ回すほど減衰されます。

TREBLE(高音調整)についても同様です。

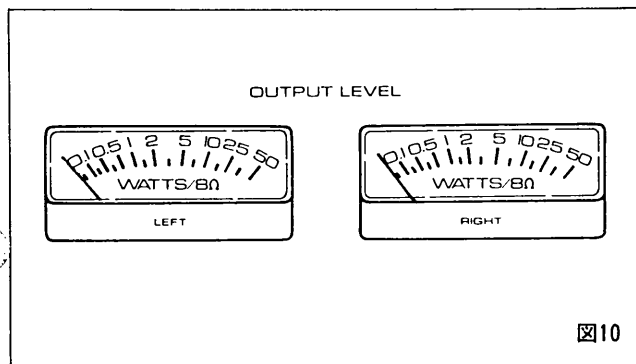


図10

### ● 出力レベルメーター

本機の出力レベルメーターは、左右各チャンネル独立しており、8Ωのスピーカシステムを接続した場合、50Wまでの値をレンジを切換えなくて直読できるよう設計されています。(図10)

## ● バランス

ステレオ・バランスは左右スピーカーの能率の違いや家具の配置などによって影響を受けます。またプログラムソース自体に片寄りがある場合もあります。バランスツマミで左右それぞれのチャンネルの音量を調整してください。右に回すと左側の音が小さく、左に回すと右側の音が小さくなりますので、いつも聞かれる位置で左右スピーカーの音が正しいバランスになるように調整してください。(図11)

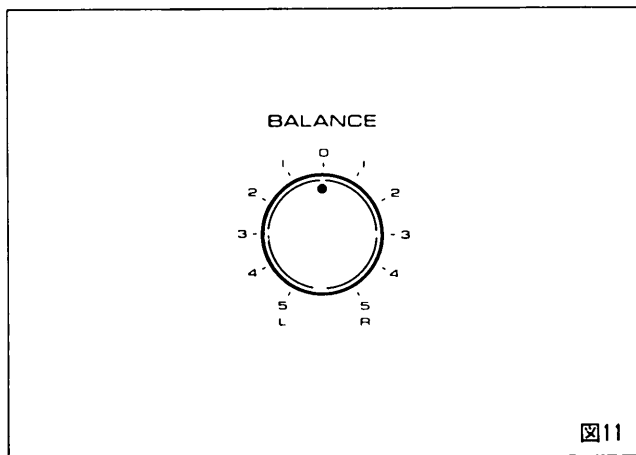


図11

## ● ラウドネススイッチ

人間の聴覚には音量が小さくなるにつれて低音と高音が聞こえにくくなるという特性があり、これを補正するためのスイッチです。小音量でお聞きになる場合はONの位置にセットしていただければ低音と高音のそこなわれない再生音でお聞きになれます。(図12)

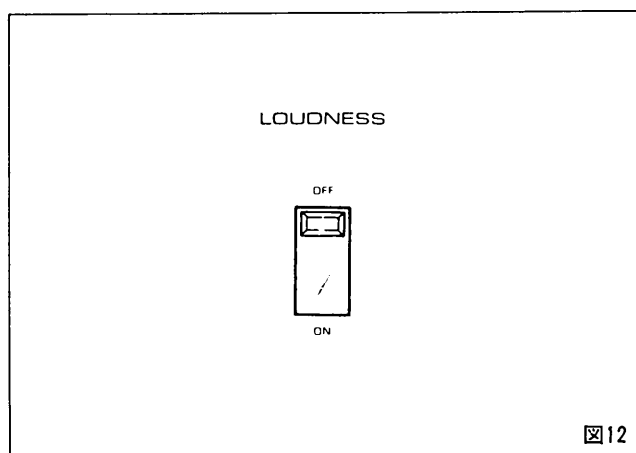


図12

# 規格 ブロックダイアグラム

## ● 規格

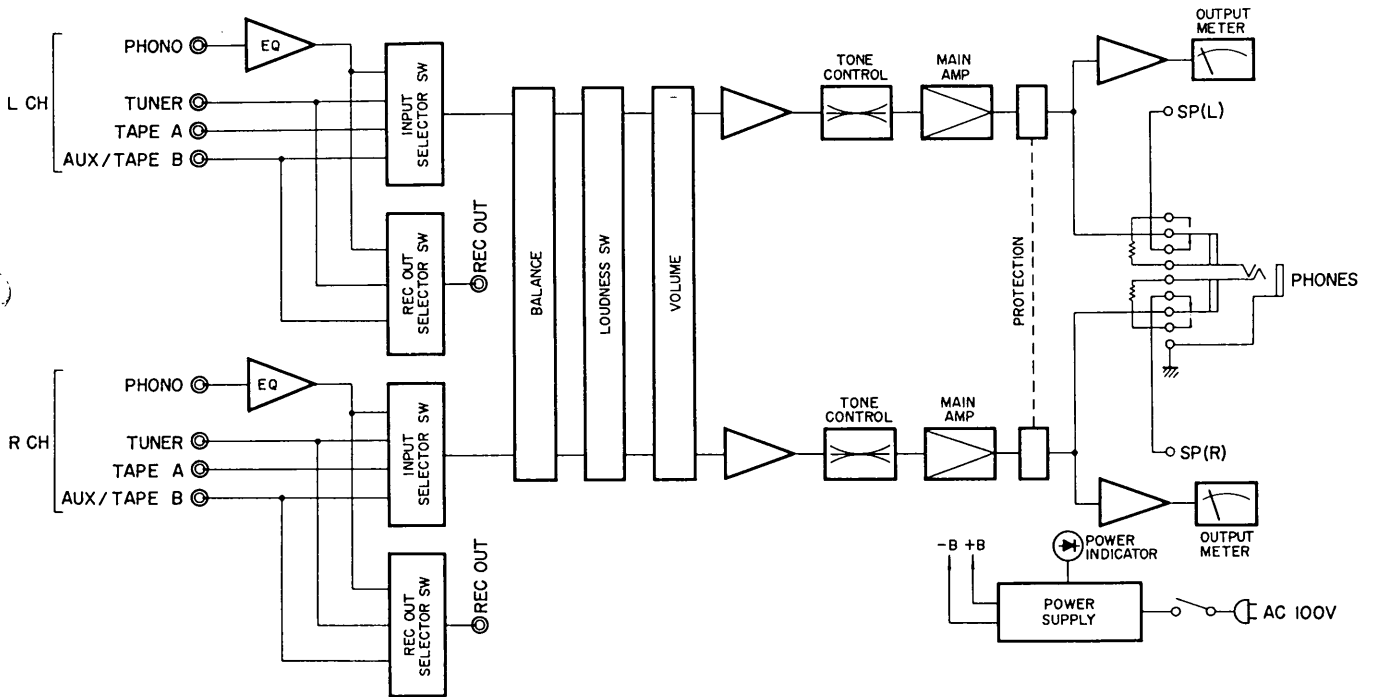
ダイナミックパワー(1HF, 8Ω 1kHz)	85W
実効出力	
20Hz~20kHz(両ch駆動)	8Ω 25+25W
1kHz(両ch駆動)	8Ω 27+27W
	4Ω 33+33W
1kHz(片ch駆動)	8Ω 30+30W
	4Ω 40+40W
全高調波歪率 実効出力時	0.05%以下
混変調歪率 実効出力時	0.05%以下
パワーバンド幅(1HF 両ch駆動)	10Hz~50kHz
ダンピングファクター(1kHz, 8Ω)	50以上
出力端子	
スピーカー端子	4~16Ω
ヘッドホン端子	4Ω以上
S/N(1HF, Aネットワーク)PHONO	77dB
S/N(1HF, Aネットワーク)AUX	100dB
残留雑音(8Ω, プリ+パワーアンプ: Aネットワーク)	0.13mV

入力端子(感度/インピーダンス)	
PHONO	2.5mV, 50kΩ
TUNER, AUX/TAPE B	150mV, 50kΩ
TAPE PB A	150mV, 50kΩ
出力端子(レベル/インピーダンス)	
TAPE REC OUT A	150mV, 1kΩ
PHONO 許容入力	120mVrms
(1kHz, 0.05%THD)	
トーンコントロール	
BASS	50Hz ±10dB
TREBLE	10kHz ±9dB
ラウドネス	-3dB VoL down +9dB at 50Hz +6.5dB at 10kHz
その他出力レベルメーター	
REC OUT セレクタースイッチ	
SP 保護回路	

■電源部	
電源電圧	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	80W
電源コンセント	電源スイッチ運動1 max150W
	電源スイッチ非運動2 max200W (TOTAL)
■その他	
外形寸法(W×H×D mm)	435×137×340
重量	7.5kg
使用半導体	トランジスター.....34
	ツェナーダイオード.....1
	ダイオード.....18

●上記の規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

## ●ブロックダイアグラム



## 故障と思われる時には

症 状	原 因	処 置
電源スイッチをONにしても電源が入らない	電源コードが電灯線コンセントにしっかり差込まれていない	コンセントにしっかり差込みなおす
左右のスピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない	スピーカーコードの接続が不完全	スピーカーコードの接続を確認する
	BALANCEツマミがずれている	BALANCEツマミを正しく調整する
再生中に突然音が出なくなった	スピーカー保護回路が動作している	一応電源スイッチをOFFにし、しばらくしてからONにする
低音のない不自然な再生音で、音像が定位置しない	スピーカーの位相(+、-)が合っていない	位相(+、-)を合わせて接続しなおす
レコード演奏のとき、「ブーン」というハム音が入る	プレーヤーのアース線をGND端子に接続していない	アース線をバックパネルGND端子に接続する (接続しない方がいい場合もある)
アマチュア無線の通信内容が再生音に混入する	近所にアマチュア無線局がある	もよりの電波管理局に相談する
		日本楽器各支店のオーディオ技術係に相談する
レコード再生時、VOLUMEをあげると「ワーン」という音が出る	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして「ハウリング」を起こしている	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてみる

注) 電源ヒューズの交換はヒューズが本体内部にあるため、日本楽器各支店のオーディオ技術係にご連絡ください。

● サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオ技術係へお願い致します。

## サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオ技術係へお願い致します。

### ■支店への持込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買上店又は最寄りのヤマハ各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお得ですし短時間でなおしすることができます。裏表紙のヤマハ各支店の住所と電話番号をご参照ください。

### ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか？”とお思いになる点がございましたら、まず“故障と思われる時には……”の項をお読みになってください。故障ではなく、ご自分でかんたんになおしになれる場合もあると思います。（ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障ではない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきます）

### ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。（セットの具合をもう少しくわしくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によってお約束を変更しなければならないようなときに、お客様にご迷惑をおかけしないですみます）

### ■故障の状態はくわしく

サービスをご依頼なさるときは、故障の状態をできるだけくわしくお知らせください。またセットの型番、製造番号などもあわせてお知らせください。（サービスにお伺いする際、あらかじめ補修部品などを手配し、二度お伺いしなればならないようなご迷惑をおかけすることがありません）

### ■サービスのお約束

お仕事の関係で昼間ご不在がちなお客様や留守がちなお客

様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪くなられましたら、できるだけはやめにご連絡くださるようお願い致します。（事前にご連絡をいただきませんと、ご不在の場合でも、出張料を頂戴いたしますので、ご注意ください）

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施致します。尚補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

■万一お買上店でのサービスについてのご不満又は製品の不調や疑問がございましたら、ご面倒ではございますが、下記ヤマハ各支店オーディオ技術係にご連絡くださいますようお願い致します。

### ■各支店住所（オーディオ技術係）

東京支店・〒101	東京都千代田区外神田3-10-12 TEL (03)255-2241
大阪支店・〒542	大阪市南区日本橋1-23(日本一ビル内) TEL (06)643-3874
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151
北海道支店・〒064	札幌市中央区南十条西1-4(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台支店・〒980	仙台市一番町2-6-5 TEL (022)27-8511
広島支店・〒731-01	広島市紙園町西原862(技術センターニシク内) TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市鍛冶町122 TEL (0534)54-4111

## 日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430・浜松市中沢町10-1 TEL・0534(61)1111	神戸店	〒650・神戸市生田区元町通り2-188 TEL・078(321)1191
東京支店	〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL・03(572)3111	四国店	〒760・高松市丸亀町8-7 TEL・0878(51)7777
銀座店	〒104・東京都中央区銀座7-9-14 TEL・03(572)3111	名古屋支店	〒460・名古屋市中区錦1-18-28 TEL・052(201)5141
渋谷店	〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7 TEL・03(463)4221	九州支店	〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL・092(472)2151
池袋店	〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2 TEL・03(981)5271	福岡店	〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内 TEL・092(721)7621
横浜店	〒220・横浜市西区南幸2-15-13 TEL・045(311)1201	小倉店	〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL・093(531)4331
ジョイナス ヤマハ店	〒220・横浜市西区南幸1-5-1 TEL・045(311)6361~4	北海道支店	〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL・011(512)6111
千葉店	〒280・千葉市中央4-2-1/まつだやビル内 TEL・0472(24)6111	仙台支店	〒980・仙台市1番町2-6-5 TEL・0222(27)8511
大阪支店	〒564・吹田市新芦屋下1-16 TEL・06(877)5151	広島支店	〒730・広島市紙屋町1-1-18 TEL・0822(48)4511
心齋橋店	〒542・大阪市南区心齋橋筋2-39 TEL・06(211)8331	浜松支店	〒430・浜松市鍛冶町122 TEL・0534(54)4111
梅田店	〒530・大阪市北区梅田町1/阪神百貨店5階 TEL・06(345)4731	海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・ シンガポール・フィリピン